

# 第1章 沖縄型カジノ・エンターテインメントモデル及びコンセプト

## 1 前提条件の整理

### (1) 海外統合リゾートの状況

沖縄観光は、「質の高い沖縄観光の実現」「大きな飛躍に向けた基盤づくり」を課題とし、その施策の一つとして多様なエンターテインメントの導入を検討している。

海外では、カジノはエンターテインメントの一つとしてグローバルスタンダードとなりつつあり、各国の状況に応じて様々な形で観光の魅力を創出している。

- ・ 海外のエンターテインメント都市は、映画や歴史等を中心にファッションや文化といった横方向への広がり、ビジネスとしての川上・川下を抱合していく広がりを持っている。
- ・ 映画やミュージカルは単体で成立しているというよりも、互いに影響し合う関係にあり、それが大きな経済波及効果を生み出している。
- ・ 海外においてはカジノが合法化されており、大企業によるビッグビジネスとなっている事例が多い。
- ・ カジノには、立地や施設形態などにより、様々な類型があり、以下のように整理される。

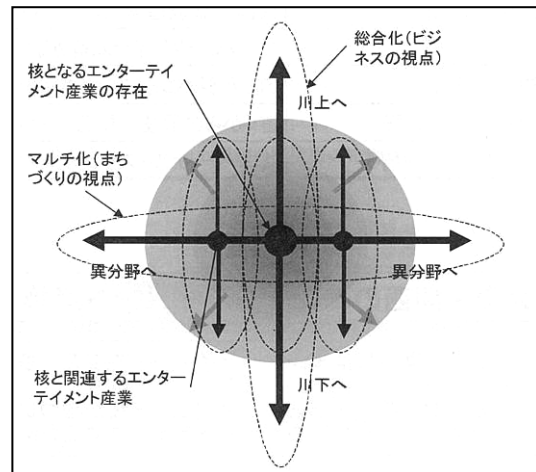


図 1-1 海外のエンターテインメント産業・都市の状況

資料:「エンターテインメント産業振興基礎調査」(平成 18 年 3 月 (財)大阪市都市型産業振興センター)

表 1-1 立地形態による分類

地上-観光地型	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光地や保養地にあるカジノで観光客が主要顧客。</li> <li>・多くの場合、カジノは観光ホテルの内部にあるか、併設された付属施設(共同使用)であり、大規模なものが中心。</li> </ul>
地上-都市・郊外型	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市の中心部もしくは郊外にあるカジノで、地元住民や都市型観光客が主要顧客。</li> </ul>
船上カジノ-クルーズ型	<ul style="list-style-type: none"> <li>・船上カジノのうち、定期的に周航して出発点に戻ってくるカジノ船。</li> <li>・主な特徴は、①経費が安い(土地代が不要、警備や地元住民対策も最小限でよい)、②地元住民等からの反対運動が少ない、③犯罪等のコントロールがしやすい等。</li> </ul>
船上カジノ-ドックサイド型	<ul style="list-style-type: none"> <li>・船上カジノのうち、棧橋につながれたまま動かないカジノ船。</li> <li>・主な特徴は、①入場時間が制限されない、②天候に影響されない、③船を動かす人員・費用・空間が不要、④重量制限がない等。</li> </ul>

表 1-2 施設形態による分類

カジノハウス (単体型)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨーロッパのカジノに多いものであり、ホテル機能を持たないカジノ。</li> <li>・付帯施設: レストラン、バー、ショップ</li> </ul>
カジノホテル (ホテル併設型)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主にホテル機能を持つカジノ。</li> <li>・付帯施設: レストラン、バー、ショップ、ホテル</li> </ul>
複合型 (商業施設等併設型)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテル機能に加え、商業施設や文化施設、リゾート施設などの機能も持つカジノ。</li> <li>・付帯施設: レストラン、バー、ショップ、シアター、シネマコンプレックス、ショッピングセンター、コンベンションホール等</li> </ul>

表 1-3 カジノ事業の類型

		ヨーロッパ型	ラスベガス型
歴史・概念等	歴史的背景	<ul style="list-style-type: none"> <li>・王族貴族の娯楽として始まり、富裕層の社交の場の感覚で認知されている。</li> <li>・カジノは観光資源、観光振興策として捉えられている。</li> <li>・アングラカジノが多数存在したため、カジノは禁止するより合法化して管理することが得策との判断で、解禁された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界恐慌を背景に、ネバダ州は税収の確保を目的としてカジノを合法化した。当初はフーバーダム建設労働者の娯楽の場として発展し、次第に観光やエンターテインメント性が付加されていった。</li> <li>・砂漠の中の街ゆえに、常に強大な競争力を持たないと生き残ることができず、その競争原理の下、長い年月をかけて大規模集積型のカジノ+エンターテインメント+コンベンションを中心とした街が形成された。</li> </ul>
	概念・哲学・雰囲気	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の特性を重視し、カジノを既存のエンターテインメントと絡めることも、また新たなカジノ・コンプレックスとして存在することもある。</li> <li>・文化、地域性を重視することにより、趣があり、地域や歴史に溶け込み根付いたカジノ。</li> <li>・社交場の要素が強い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常にカジノ・コンプレックスとしての競争力で優ることが宿命であり、次のような志向を持つ。</li> <li>・大衆の娯楽として派手で賑やか。エンターテインメント性が高い。</li> <li>・ゲーミング産業としての積極的なアピール。</li> <li>・量的拡大志向。</li> </ul>

## ア 米国

アメリカでカジノといえば、ラスベガスが代名詞になっている。カジノの歴史は世界恐慌の波を受ける 1930 年代、ネバダ州が税収確保を目的にカジノを建設したのが始まりである。ラスベガスカジノの歴史は、単なるギャンブルから、時代のニーズや誘客戦略のためにその形を進化させ、現在は様々なエンターテインメント、ショッピング、コンベンションなどを取り入れた複合型のリゾートとなっている。

その他、アメリカには、1977 年に設立されたニュージャージー州のアトランティック・シティのカジノが有名であり、フィラデルフィア、ニューヨーク、シカゴ、ペンシルバニア等の近郊エリアの人々を集めている。

## イ 欧州

カジノは、ヨーロッパが発祥とされている。王侯貴族の社交場として楽しまれ、ヨーロッパのほとんどの国々に普及している。

もともと王侯貴族の娯楽であったこともあり、格式が高く、服装などに規制が厳しく、正装で入場することが定着していた。

ラスベガスタイプとは異なり、カジノ、レストラン、コンサートホール、ギャラリーなど文化的な側面が強い。

また、形態としては伝統的な保養地や観光地に立地し、従来からの街並みや景観、諸施設にうまく融合し、相乗効果を発揮しながら地域全体でエンターテインメント性を高めている。いわゆるエリア内（地域内）の複合施設と捉えることができる。

## ウ アジア

アジアの経済成長に伴ってレジャー消費や海外旅行が急激に増加している。

アジアのカジノはこれまでマカオ（1930年）、韓国（1965年）、フィリピンなどが知られていたが、2002年にマカオ政府がカジノ経営権を外資に開放し、急成長を見せたことや2005年にシンガポールがカジノの合法化を決定したことにより、さらに世界的に注目を浴びている。

今後もアジア地域のカジノ産業は国際観光の増加に伴って成長を続けることが予想されており、各国の観光客の誘致合戦が繰り広げられるものと推測される。

MICEは、大人数の誘致とともに、消費額の高さから各国ともカジノ同様に経済効果の高い施設としてスタンダードとなりつつある。

表 1-4 カジノの形態(地域別特性)

アメリカ型	ヨーロッパ型	アジア・オセアニア型
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラスベガスは新しいカジノ都市形成</li> <li>・カジノホテル主体</li> <li>・24時間営業</li> <li>・スロットマシンとブラックジャック</li> <li>・極めて低い税率 (ほとんど20%以下)</li> <li>・事業者は資金力のあるエンターテインメントビジネス企業が多い</li> <li>・幅広い層が利用(大衆化傾向)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市・温泉保養地立地が多い</li> <li>・カジノ単体が多い</li> <li>・夜間中心の営業</li> <li>・伝統的なテーブルゲーム重視</li> <li>・国や州の強い規制、高い税金 (80%の例も)</li> <li>・事業者は小規模なカジノ経営体または大手グループ</li> <li>・比較的所得の高い層が利用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島嶼、海岸等自然環境や立地を活用</li> <li>・開設の経過等は各国様々</li> <li>・カジノホテルが多い</li> <li>・24時間営業が多い</li> <li>・オーストラリア、パハマはスロットマシン系、アジアはバカラが多い</li> <li>・営業システムは欧米ハイブリッド</li> <li>・外国人向けが比較的多い</li> </ul>

資料:「東京都都市型観光資源の調査研究報告書」(平成14年10月 東京都)

表 1-5 近年のカジノ建設における付帯施設(MICE・エンターテイメント等)の例

カジノ施設名称	敷地面積 (㎡)	ホテル (室)	MICE・エンターテイメント概要
ベネチアン (マカオ)	30ha	3,000 室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 15,000 人収容のイベントセンター、1,800 人収容のシアター</li> <li>・ 総面積 10ha の可動式の会議室、ボール・ルーム、エキジビジョン用スペース</li> <li>・ 30 以上の最高級厳選レストラン</li> <li>・ 1,000 以上収容可能なフードコート</li> <li>・ 350 以上のトップデザイナーショップ</li> <li>・ 8,000 ㎡のデラックス・スパとウェルネスセンター</li> </ul>
リゾートワールド・センターサ (シンガポール)	49ha	1,830 室 (6 施設)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ユニバーサルスタジオ・シンガポール・テーマパーク</li> <li>・ 海洋生活探索公園</li> <li>・ 1.3ha の大きさの水公園</li> <li>・ 海洋体験博物館</li> <li>・ 3 つの野外劇場</li> <li>・ ラ・ビーショールーム 1,600 席 (シルク・ドゥ・ソレイユによる上演)</li> <li>・ マスターシェフによるグルメレストラン</li> <li>・ 統合 spa 体験ができる ESPA SPA センター</li> <li>・ 会議施設は 12,000 名を 3 つの施設で収容可能 (La Vie ショールーム、ボール・ルーム、会議室)</li> <li>・ 7 つの屋内催し物施設の選択肢を提供</li> </ul>
マリーナ・ベイ (シンガポール)	20.6ha	2,500 室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ MICE 用スペースは床面積で 110,390 ㎡</li> <li>・ 41,000 ㎡展示会用ホール</li> <li>・ 9,200 ㎡グランドボール・ルーム(柱なし。最大 8000 人収容可能)</li> <li>・ 48,000 ㎡会議室棟</li> <li>・ 2 つの劇場(各 2,000 席)</li> <li>・ エンターテイメント区画</li> <li>・ 芸術科学博物館</li> <li>・ タワーホテル上に 1 ヘクタールのスカイパーク</li> <li>・ 総面積 117,100 ㎡のマリーナ・ベイ・ショッパーズ</li> <li>・ 著名シェフ・レストラン</li> <li>・ 湾に面した 2 つの浮上パビリオン</li> </ul>

資料:ベネチアン・マカオパンフレット、『ニッポンカジノ&メガリゾート革命 国際観光立国宣言』(平成 19 年 12 月 梅澤忠雄 美原融 宮田修 編著)

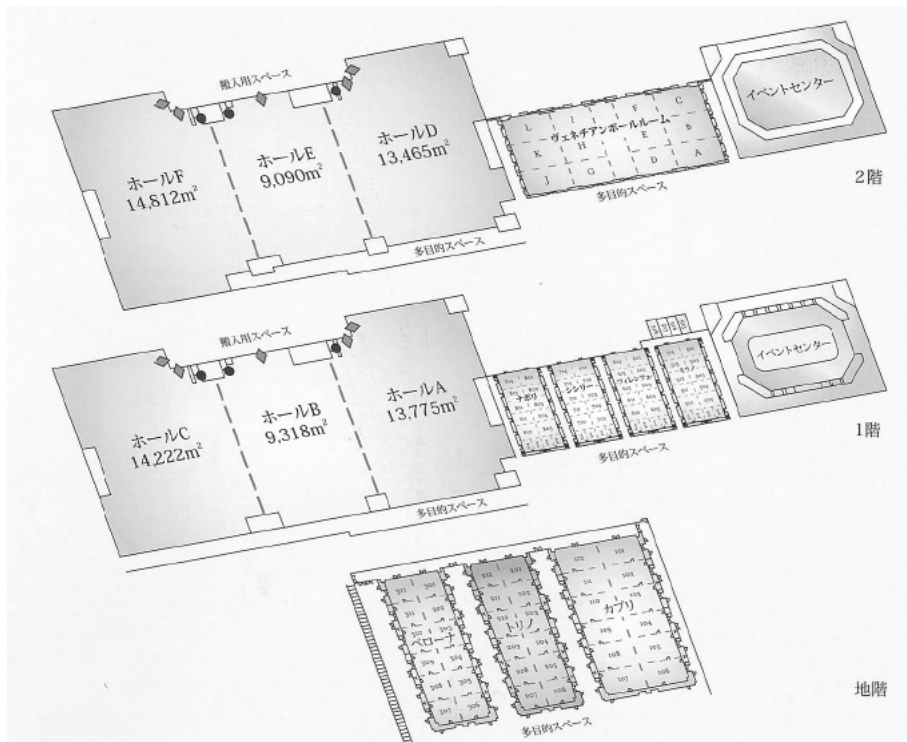


図 1-2 ザ・ベネチアン・マカオ・リゾートホテル・コンベンション エギジビジョンセンター

資料:THE VENETIAN Macao~Resort~Hotel (パンフレット)

## (2) 国内での検討方向

### ア カジノ・エンターテインメントの形態

自民党基本方針において、下記のように明記されている。

#### (ア) 我が国におけるカジノ・エンターテインメント導入に向けての基本方針 平成 18 年 6 月

##### 基本的枠組み－許諾の対象(抜粋)

- 観光振興や地域振興・地域再生を目的に、特定地域に固定して設置される複合的なエンターテインメント施設をこの法が対象とするカジノとする。
- カジノは単純賭博遊興施設ではなく、複合観光施設(カジノ・コンプレックス)として位置づける。但し、個別地域の事情や観光特性を考慮し、地域独自の判断や創意工夫を容認すると共に、既存の観光資源と新たな観光施設の融合が同等の効果をもたらすものであっても差し支えない。

#### (イ) 複合観光施設「カジノコンプレックス」とは？

- ・ 「エンターテインメント事業可能性調査報告書（沖縄県 平成 15 年 4 月）」によると、カジノ・ゲーミング施設の類型化において、「複合型」とは、ホテル機能に加え、商業施設や文化施設、リゾート施設などの機能を持つカジノとされている。
- ・ 「カジノ制度構築に向けた諸課題と対応策（JAPIC 平成 15 年 2 月）」によると、カジノ施設の発展段階という観点からは、まず単純なカジノに始まり、その後①地域集客（地域型）、②多様な顧客層の集客（都市型・中間型）、③長期間滞在型（観光リゾート型）の発展過程をたどりながら、大衆化、健全化し、明るい普通のレジャーの 1 つに変化していく傾向が分かる。そして、その最先端には総合エンターテインメント性をもつカジノ・メガリゾートであるラスベガス・ストリップ通りが位置付けられるものと思われる。
- ・ 世界最新の複合型カジノエンターテインメント動向の例として、シンガポールでは、カジノはリゾートエンターテインメントの中で最重要要素としながらも、新しいリゾートエンターテインメントはカジノ以上のものでなければならず、それには最高のホテル、料理、コンベンション、ショッピングモール、エンターテインメントを集積した「IR（インテグレートッド・リゾート）」が必要とのことで建設を進めている。

(ウ)カジノ施設形態の考察 (JAPIC 社団法人日本プロジェクト産業協議会 より)

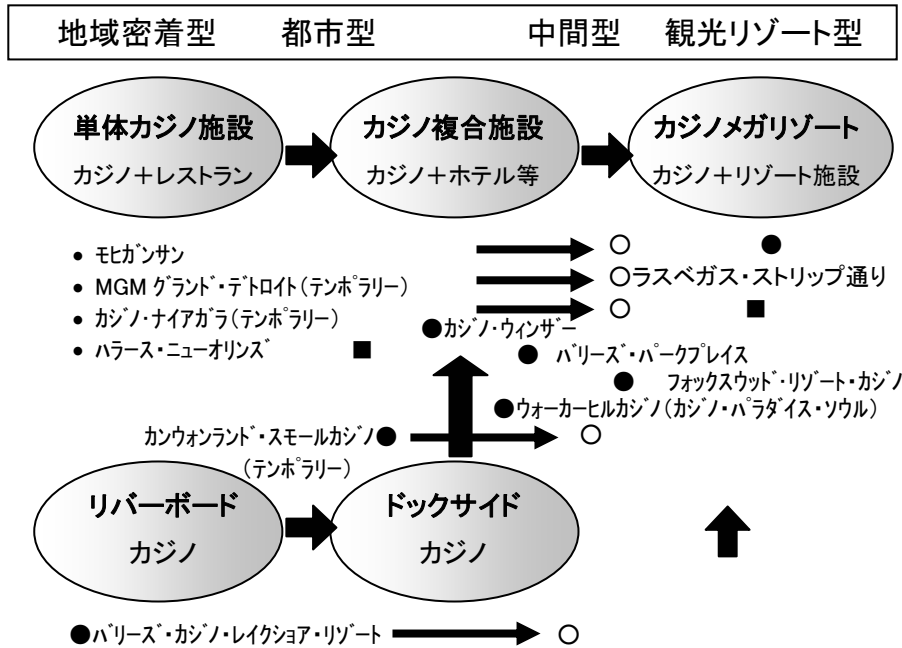


図 1-3 カジノ施設の発展段階による分類

(抜粋) 世界のなかには、地域密着型のカジノのあり方を追求してゆく行き方もある。つまり、都心に立地し身近に高質な娯楽空間を提供するものや伝統的な保養地や観光地に立地し従来からの町並や景観、諸施設にうまく融合し、相乗効果を発揮しながら地域全体として総合エンターテインメント性を高めてゆこうとする動きである。しかし、その場合であってもカジノ施設を一定のエリア内（地域内）の複合施設ととらえる視点はかわらない。それは単純カジノ施設であっても、都市自体のエンターテインメント性や雄大な自然空間などの観光地のアメニティーと協働する複合アメニティー施設の一翼をなすものなのであり、カジノ施設に高い品位とテーマ性、アミューズメント性が要求されることは言うまでもない。

資料:「カジノ制度構築に向けた諸課題と対応策」(平成 15 年 2 月 (社)日本プロジェクト産業協議会 )

### (3) 沖縄の地域特性

#### ア 地理的特性

沖縄県は、我が国の南西端に位置し、日本本土、中国大陸、東南アジア諸国を結ぶ中心部にある。県都那覇市から2,000km圏内には、東京、ソウル、北京、上海、台北、マニラなどアジア諸国の主要都市が位置している。

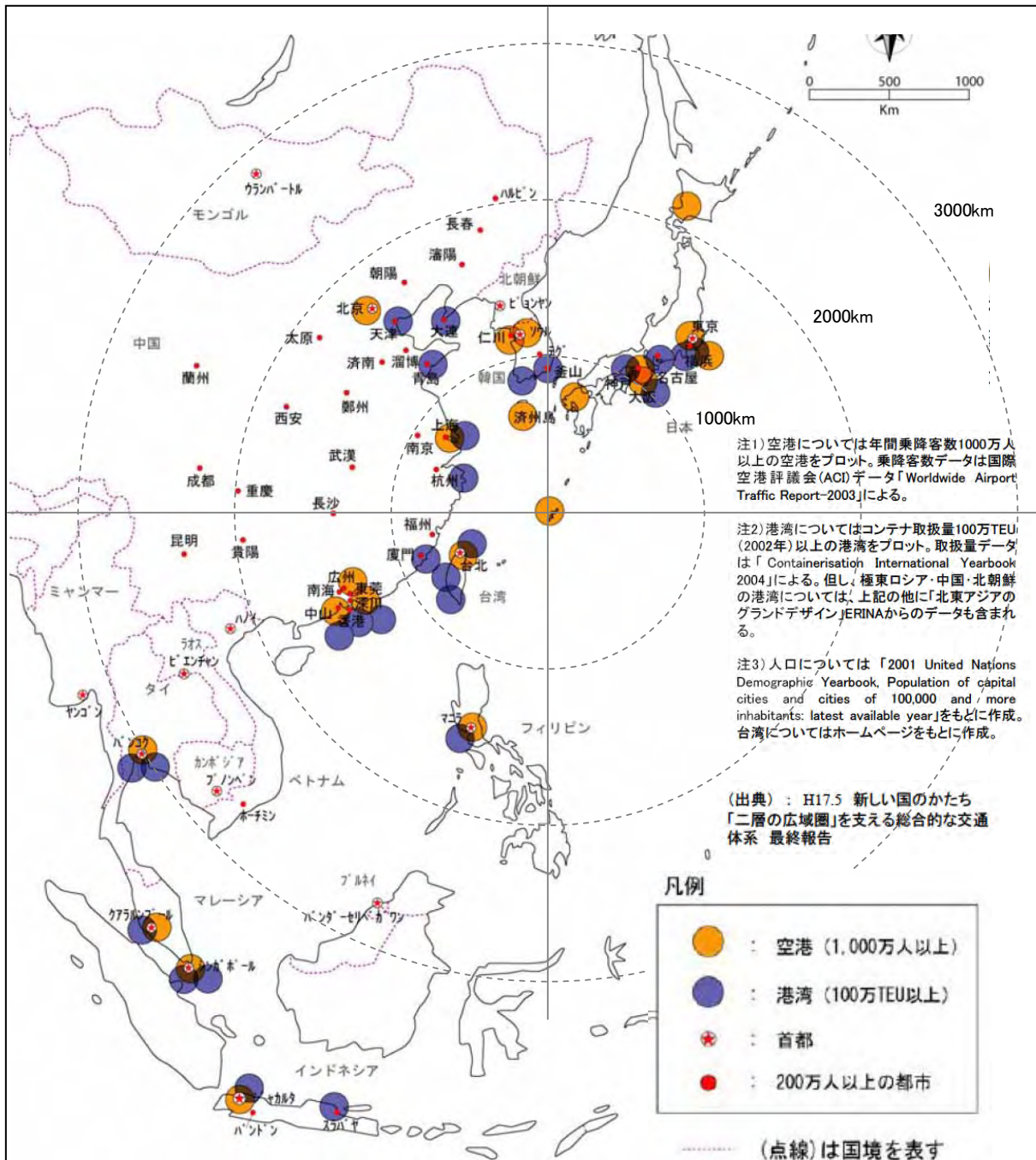


図 1-4 東アジアの国際ゲートウェイの現状

資料:『新しい国のかたち「二層の広域圏」を支える総合的な交通体系 最終報告』(国土交通省資料に距離を追加)



## イ 自然・歴史文化的特性

沖縄県は、亜熱帯海洋性気候帯に属する我が国唯一の島嶼県である。周辺海域はサンゴ礁が発達し、河口域にはマングローブ林が群生するなど、多様な生態系を有している。

歴史的には琉球王朝という一つの王国を築いていた時代があり、13世紀前後には、東シナ海、南シナ海等を「万国津梁」の気概で駆けめぐり、日本や中国南方諸国との海上の貿易により交易国家として栄えた。また、交易を通して他国の文化を取り込み、独自の琉球文化を創出した。

アジア諸国との交流の歴史をはじめとし、海外移民、戦後の米国との係わり等による独自の国際交流の蓄積は、沖縄県民の親和性、寛容性、おおらかさなど多様性を受入れる国際的な感覚を育んできた。伝統的に「ユイマール」にみられる相互扶助の精神を尊重する風土も有している。

### (ア)琉球王国の伝統に基づく歴史文化(Heritage)

かつて、沖縄は、琉球国王の治める独立国であり、「万国津梁」の気概を持ち、アジアの大国中国をはじめ近隣諸国と貿易を展開して栄えた。



琉球王国の文化は、世界遺産となったグスク群や冊封使をもてなす宮廷芸能から庶民の芸能、工芸に至るまで独自の文化を花咲かせ、今日に受け継がれている。近年ではエイサーや三線にみられる琉球文化や音楽、また沖縄出身アーティストの活躍が注目を集めるなど評価が高まっている。

### (イ)「東洋のガラパゴス」と称される自然の多様性と美しさ(Nature, Ecology)

沖縄県は、日本で唯一、亜熱帯地域に属し、一年中温暖な気候に恵まれている。鮮やかな熱帯魚が群れを成すサンゴ礁の海、本島北部や西表島にはヤンバルクイナやイリオモテヤマネコなど世界的にも貴重な動物が生息している。



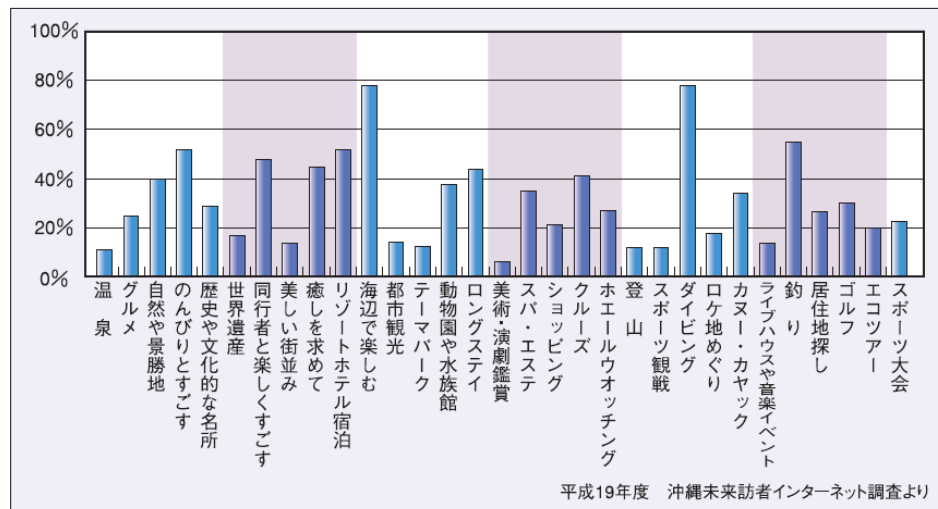
特に、沖縄の「海」は世界に誇れる自然の宝である。世界でも5本指に入るともいわれる沖縄のビーチの魅力は抜群の透明度、白砂のきめ細やかさにおいて優れているといわれている。

サンゴ礁に囲まれた海域はマリンスポーツにも最適であり、ダイビングはサンゴ礁や熱帯魚に彩られた質の高い魅力を有している。海水浴からダイビング、パラセーリング、ジェットスキーなどアクティブな海の楽しみ方が多様である。



一方で、青い海、青い空など海に「癒し」を求める人もおり、ゆったりと海をながめたり、海辺で飲食をすることに非日常を求めるなど多様なニーズがある。

沖縄を訪れる人の大半は、海を目的としており、多面的な「海」の魅力が求められている。



☆沖縄の魅力の認知度：各旅行タイプを沖縄に限らず「今後してみたい」と回答した人のうち、その旅行タイプを沖縄で「とても楽しめる」と回答した人の比率

図 1-5 沖縄の魅力の認知度

出典：「平成 19 年度 沖縄観光統計実態調査」

#### (ウ)長寿とスローライフ・スローフード(Healthy)

沖縄は、世界有数の長寿地域の一つで、その理由として、温暖な気候やおおらかな県民性、伝統的な食文化がある。特に食文化は中国との交流を通して医食同源という考え方が広く浸透し受け継がれている。国際的・学術的にも注目を浴び、海外から多くの研究者が訪れている。



#### (エ)人情と癒し(ホスピタリティー)(Hospitality)

沖縄の文化には、ユイマール（相互扶助）の精神やイチャリバチョーデー（出会えば兄弟）、ナンクルナイサー（なんとかなるさ）といった言葉に表されるように人情味あふれるおおらかな県民性を持ち、人を受入れるホスピタリティーを持っている。

#### (オ)戦争体験や平和への希求(Peaceful)

太平洋戦争では、住民を巻き込んだ国内唯一の地上戦の場となり、戦後は米軍の施政権下に置かれた歴史を持つ。県民は沖縄戦の経験を基に「命どう宝」の精神で、平和の大切さ、命の尊さを強く訴えている。

写真出典：「沖縄県の概況」(平成 21 年 2 月 沖縄県)

## 《沖縄文化のエンターテイメント性》

「特異な歴史の道のりを経て」

・かつて沖縄では12世紀頃から、中国や日本、朝鮮、東南アジアの国々と交易をおこない、琉球王朝を築き上げ、交流の中で諸外国の文化に影響を受けながらも、沖縄の風土に合わせて、独自の文化を築きあげてきた。また、第二次大戦後は米軍統治下に置かれ、音楽をはじめ、食文化、衣料品や車社会など、欧米文化の影響も強く受けている。様々な地域文化や思想の影響を独自の感性で昇華させ、発達させてきたのが沖縄の文化である。この独自性こそが沖縄を訪れる人々をとらえて離さない魅力となっている。

「万国津梁の鐘」「蓬莱の島」

・「万国津梁の鐘」は1458年に尚泰久王が鑄造させ、首里城正殿に掲げていた。これに刻まれていた銘文は、「(現代語訳)琉球国は南海勝地で、三韓の秀を集め、中国・日本とも親密な関係にある。この二国の間に湧きいずる蓬莱の島である。船を操って世界の架け橋となり、めずらしい宝は国内に充ち満ちている」としており、琉球の交易立国を宣言している。

「芸能の島 国際交流に育まれた芸能・文化」

・沖縄は、芸能の島ともいわれる。琉球王朝時代、王府は冊封使の歓待等をはじめ芸能の発展に力を注ぎ、組踊りや舞踊、音楽などの宮廷芸能を花咲かせた。

・祭りの奉納や庶民の娯楽としての芸能も盛んで、エイサーやハーリーに代表されるように先祖霊を迎える祭りや豊作・豊漁を祈願する祭り、悪霊をはらう祭りなど多種多様で、地域色も豊かである。今日でも「沖縄全島エイサー祭り」や「琉球王朝絵巻行列」など、沖縄の歴史や文化、伝統芸能などを取り入れ、新しい祭りも生み出している。

・戦後、アメリカの統治下には本場のロックやジャズが流入し、オキナワンロックはアメリカ兵から熱狂的な支持を集めた。現在の沖縄音楽は、ロックから歌謡曲、オキナワンポップスに至るまで、さまざまな形で注目を集めている。一方で、2004年には『国立劇場おきなわ』がオープンし、組踊や古典音楽といった伝統芸能の保存継承の動きも活発化している。



図 1-6 琉球王国の交易ルート(14世紀末-16世紀中期)  
資料:『アジアのなかの琉球王国』(高良倉吉)



写真出典:財団法人沖縄観光コンベンションビューロー 沖縄観光情報サイト「mahae plus」(<http://www.ocvb.or.jp/>)

## ウ 観光施策

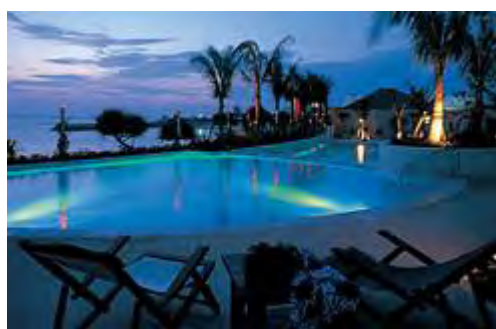
### (ア) 海洋性リゾートの展開

沖縄県は、亜熱帯海洋性気候風土の下、美しい白砂の海岸線や琉球王国の海外交易から育まれた独特の伝統文化など優れた観光・リゾート資源を有しており、これを背景として「多様なニーズに対応した通年・滞在型の質の高い観光・リゾート地の形成」を目指している。

リゾートの環境を活かしたアクティビティとして、リゾート・コンベンションをはじめリゾート・ウェディングやリゾートスパ、健康保養型観光（ヘルスツーリズム）、などが展開され、今後もリゾート環境を活かした展開の拡大を目指している。



リゾート・ウェディング



リゾートエステ・スパ・ヒーリング等



健康保養型観光



リゾート・コンベンション

写真出典：財団法人沖縄観光コンベンションビューロー 沖縄観光情報サイト「mahae plus」(<http://www.ocvb.or.jp/>)



## (イ) 沖縄観光の課題「第3次沖縄県観光振興計画」より抜粋

### a 国際海洋性リゾート地の形成に向けた課題

- ・ 「沖縄ならではの」の地域資源を有効に活用した質の高い観光地づくりを強力に進める必要がある。
- ・ 沖縄観光の魅力をさらに増進させるため、新たな拠点形成を検討する必要がある。
- ・ 魅力ある観光施設の集積を促進するとともに、関連社会インフラの一体的な整備を重点的に進める必要がある。

#### 《主な観光施策》

- ・ 海浜・緑地等の整備
- ・ リゾートショッピング
- ・ マリーナ、フィシャリーナ
- ・ クルーズ観光

### b 国民の総合的な健康保養の場の形成と体験・滞在型観光の推進に向けた課題

- ・ 「癒し」や「保養」に関連する優位性をさらに活かした商品・サービスの開発やプロモーションを展開し、沖縄の「癒し」を観光ブランドとして定着させる必要がある。
- ・ 地域の自然や文化を保全しながら持続的に活用することで地域の活性化を図る。
- ・ 音楽や空手など観光誘客拡大に結びつける具体策を検討する必要がある。

#### 《主な観光施策》

- ・ 健康保養型観光
- ・ エコツーリズム
- ・ 文化交流型観光
- ・ 長期滞在型観光

### c コンベンション・アイランドの形成に向けた課題

- ・ 沖縄での国際的な MICE 開催のインセンティブを高めるため、MICE 主催者が必要とする情報やサービスの円滑な提供、多彩なコンベンション施設等の整備、同時通訳者等の人材の育成など受入体制の充実を図っていく必要がある。

#### 《主な観光施策》

- ・ 国際的な MICE
- ・ スポーツコンベンション

### d 国内外の観光客受入体制の整備と誘客活動の強化に向けた課題

- ・ 多様化する観光ニーズに対応するきめの細かい観光情報の発信、台風時における観光客への対応の強化、誰もが楽しめる優しい観光地づくりを目指した観光のバリアフリー化の推進などが求められている。

- ・ リピーターの割合が増え、初来訪者が実数で減少しており、今後も持続的に来訪者を増加させるためには、修学旅行者や外国人客などの初来訪者の誘客を強化するとともに、新たなマーケットの開拓が必要である。
- ・ 外国人観光客の誘客に関しては、誘客重点地域現地におけるマーケティングに基づく外国人向け旅行商品の開発、外国人対応のインターネット情報の充実等、戦略的な外国人観光客の誘致活動に取り組む必要がある。

#### 《主な観光施策》

- ・ 観光バリアフリー化
- ・ 観光産業人材育成
- ・ 多様なエンターテインメント
- ・ 外国人観光客の受入体制
- ・ 外国人誘客活動の推進

表 1-6 「沖縄県の観光施策と国際化へのグレードアップの課題」

観光施策	これまでに検討された取組みなど	国際化の課題
①国際的海洋性リゾート地の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康保養型観光の推進</li> <li>・ヘルシーアイランド構想</li> <li>・国際ショッピングモール構想(DFS 誘致等)</li> <li>・リゾート・ウェディングの推進</li> <li>・マリナー、フィシャリーナ整備</li> <li>・クルーズ観光の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様なリゾート・アクティビティ</li> <li>・観光関連施設の集積</li> <li>・通年・全天候型観光</li> <li>・公共インフラの重点整備</li> <li>・自然環境・景観の保全修復</li> </ul>
②国民の総合的な健康保養の場の形成と体験・滞在型観光の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロングステイ</li> <li>・リゾートヒーリング</li> <li>・エステ・スパ</li> <li>・森林セラピー</li> <li>・タラソセラピー</li> <li>・エコ、グリーン、ブルーツーリズム</li> <li>・文化交流型観光</li> <li>・体験・滞在・交流の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エビデンス(科学的根拠)の付加</li> <li>・国際医療・研究拠点形成</li> <li>・先端医療(重粒子線がん治療等)</li> <li>・統合型医療(西洋医療と代替・伝統医療の統合)</li> </ul>
③コンベンション・アイランドの形成(MICE)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・MICE 誘致促進</li> <li>・民間企業のインセンティブツアー</li> <li>・スポーツ・キャンプ誘致</li> <li>・サミット開催</li> <li>・IDB 年次総会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・MICE 誘致基盤の強化</li> <li>・国際会議・国際大会誘致</li> <li>・人材の育成</li> <li>・アフターコンベンション・ナイトメニューの充実</li> </ul>
④国内外の観光客受入体制整備と誘客活動の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光バリアフリー化推進</li> <li>・フィルムオフィス強化</li> <li>・誘客プロモーションの展開</li> <li>・海外プロモーション戦略の展開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバルスタンダードの導入</li> <li>・アジアのロケーション拠点形成</li> <li>・通年・全天候型観光</li> <li>・ホスピタリティー向上・人材育成</li> <li>・ユニバーサル社会の形成</li> <li>・循環型・環境共生社会形成</li> </ul>
⑤産業間の連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄観光土産品のブランド化</li> <li>・健康ビジネス産業の振興</li> <li>・観光関連産業と、音楽、芸能、工芸、ファッション産業等との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エビデンス(科学的根拠)の付加</li> <li>・地域素材のブランド化</li> <li>・音楽・芸能・工芸・ファッション等のエンターテインメント、ショービジネス</li> </ul>

#### (4) 沖縄におけるカジノ・エンターテインメントの目指すべき方向性

##### ア 沖縄の特性を活かした非日常的なリゾート空間の形成

- ・ 沖縄の地域特性である自然環境や歴史文化といった国際競争力のある地域素材を活かしたリゾート空間を構築し、アジア諸国の相互発展に貢献するオンリーワン、ナンバーワンの魅力を創出する。

##### イ 沖縄の魅力のグレードアップを誘客につなげる

- ・ リゾート・アクティビティや健康・保養、コンベンション（MICE）、芸能・文化交流などの沖縄観光の基本的な資源性を基に国際競争力のある形へとグレードアップを図り、エンターテインメント機能として集積することにより、誘客基盤を形成する。
- ・ これを実現するため総合的・複合的な誘客基盤を集積した拠点形成を図る。
- ・ 観光のグレードアップのためのリゾート人材育成なども同時に行い、受入体制の充実を図る。

##### ウ 総合型のエンターテインメント拠点形成と原動力となるカジノの導入

- ・ 上記ア、イの機能を集約した総合型の観光拠点を形成し、通年・全天候型の誘客基盤を形成する。
- ・ 総合型のエンターテインメントの拠点を形成するため、民間事業者による大規模投資を呼び込むツールとしてカジノを導入する。

##### エ 「国際コンベンション・アイランド沖縄」としての地位の確立

- ・ 多産業分野にわたる経済的波及効果が大きく、雇用誘発効果の大きい MICE 分野の強化を図るための施設の充実や多様なアフターコンベンション、ナイトメニューの充実を図る。

##### オ 富裕層からファミリー、高齢者まで楽しめる多様で健全なリゾート形成

- ・ 沖縄のイメージは、自然（エコ）や健康保養（ヘルシー）といったクリーンなイメージが大きいことや、誰もが楽しめる観光地の形成という意味からも、特定の年齢層に限らず誰もが楽しめる多様で健全なリゾートを形成する。

《沖縄型カジノ・エンターテインメントの考え方》

沖縄の最大の魅力である「海」を活かす。

国際リゾート地として、非日常を感じさせる空間の形成を図る。



## 2 基本的な考え方

---

### (1) 沖縄型カジノ・エンターテインメントのコンセプト

現在我が国で検討されているカジノ・エンターテインメントのスタイルは、複合型エンターテインメント、シンガポール等の形態を例にした「**統合リゾート＝IR**（インテグレートッドリゾート）」であり、本検討においてもこの形態を基本とする。以下、これを、「沖縄統合リゾートモデル」と呼ぶこととする。

**沖縄型カジノ・エンターテインメント＝「沖縄統合リゾートモデル」**

「沖縄統合リゾートモデル」は、沖縄において、カジノを含む総合的なエンターテインメントリゾートを展開する場合における導入モデルの一つとして提示するものである。

前項で示した「カジノ・エンターテインメントの目指すべき方向性」に基づいて、沖縄型モデルケーススタディーにあたってのコンセプトを次のように提案する。

#### 《沖縄統合リゾートモデルのコンセプト》

- ① 沖縄の海を活かした「遊び」や「癒し」を、季節や天候を問わず提供する国際的海洋性リゾートを創造する。
- ② 国際交流の場として、コンベンション機能の充実や多様なエンターテインメントを導入し、ビジネスからファミリーまで、多様な顧客層に、充実した時間を提供する複合型リゾートを創造する。
- ③ 沖縄の気候・風土に根ざし、自然環境や社会・文化に調和したリゾート空間を形成する。

## (2) 沖縄統合リゾートモデルの導入機能の検討

### ア 沖縄統合リゾート拠点の形成

- ・ 前提条件において、沖縄統合リゾートモデルは、複合型観光施設＝「統合リゾート」(IR: Integrated Resort)の形態を前提に検討した。
- ・ 統合する機能については、沖縄の魅力を集約し、これまでに考えられている様々な施策を牽引していくものとする。

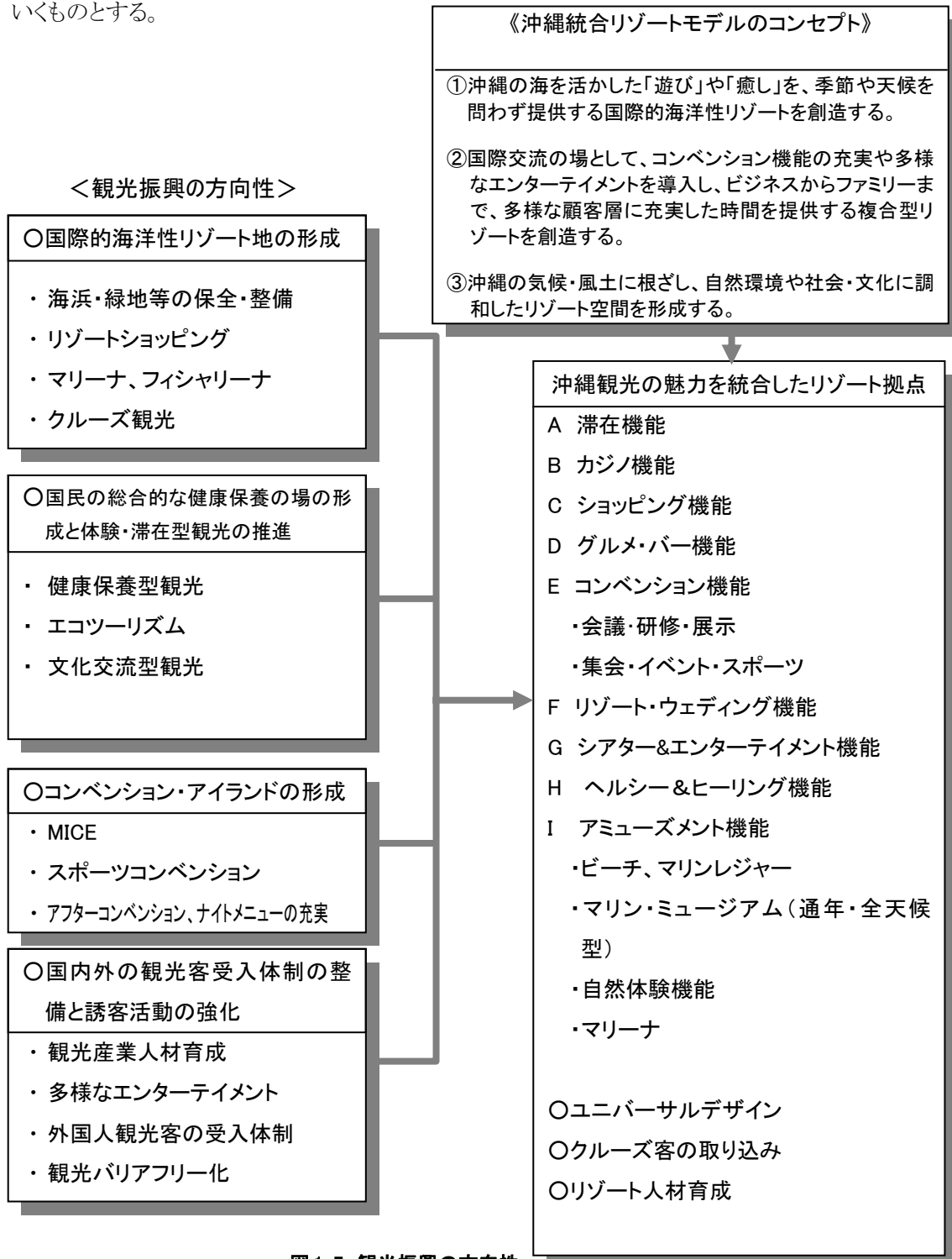


図 1-7 観光振興の方向性

## イ 沖縄統合リゾートモデルの各機能の考え方

※URL は写真出典。

### A 滞在機能(ホテル・コテージ)

⇒ホスピタリティーあふれる非日常的空間の提供 全室オーシャンビュー

- ・ 日常とは異なる地に訪れた人にとって、滞在機能は活動のベースとなるものである。よって満足度に大きく関わることから、安心・安全・快適を基本として、極上のホスピタリティーを持って対応する。
- ・ 沖縄を訪れる人々の大半は「海」に魅力を求めてきていることから、オーシャンビューを基本とする。
- ・ 様々なニーズを考慮して、高層ホテルからコテージまで複数タイプを設定する。



パハマ・パラダイスアイランド

<http://www.atlantis.com/>

### B カジノ機能

⇒洗練された大人の遊びを提供する 社交場

- ・ カジノは、沖縄統合リゾートのエンターテイメントのうちの一つであるとともに、沖縄統合リゾート全体の財務面をカバーする施設である。
- ・ カジノは、交流を目的として、大人に洗練された遊びの時間を提供する健全で華麗な「社交場」としてのイメージを創出する。
- ・ カジノは、様々なゲーミングのパターンを提供するとともに、バーカウンターや軽食等の空間も設け、社交性のあるオープンな空間とする。



ハラース(ラスベガス)

<http://www.harrahslasvegas.com/>

### C ショッピング機能

⇒新たなリゾート・ファッションを沖縄から発信する ショッピングモール

- ・ 沖縄では、「沖縄アウトレットモールあしびなー」や「DFS ギャラリー沖縄」がオープンし、ブランドショッピングが観光の新たなメニューとして定着しつつある。
- ・ 今後は、沖縄でしか出来ない魅力を創出していく必要がある。海洋リゾートのイメージを活かし、リゾート地におけるマリン或いはトロピカルリゾート・ファッションを沖縄から発信していく。



フォーラム・ショップス(ラスベガス)

<http://www.lvtaizen.com/>

#### D グルメ・バー機能

⇒沖縄型スローフードをはじめ多様なニーズに対応するワールドワイドなバラエティーグルメモールとトロピカルムードのバー

- ・ 旅行において「食」は最も重要な要素であり、かつ多様なニーズがある。地域ならではの食も求められるが、好みに合わない場合もあり、滞在中の満足度にも大きく関係する。
- ・ 選択性のある「食」を提供するためにも、国際色豊かで多様な飲食機能が必要である。
- ・ 沖縄は「食」においてオリジナリティーを有している。特に長寿地域であることから「食」は注目される要素でもある。
- ・ 泡盛や亜熱帯のフルーツなど南国の素材を活かしたカクテルなどトロピカルムードのバーでナイトライフを盛り上げる。



パハマ・パラダイスアイランド

<http://www.atlantis.com/>

#### E コンベンション機能

⇒国際会議からイベント・スポーツまで、アジアのビジネス・イベントを誘致する国際交流拠点

- ボール・ルーム(会議・研修・宴会・展示)
- イベント・アリーナ(集会・コンサート・スポーツ)

- ・ 沖縄は那覇を中心として、2,000km 圏に東京、ソウル、北京、上海、台北、マニラなどのアジアの主要都市が位置する地理的な優位性を有している。
- ・ 東アジアの近隣諸国は、経済的発展が目覚しく、今後は沖縄もこれらアジア諸国との交流を通じて国際競争力を強化していくことが必要であり、会議や展示会・交流イベント等を通じて沖縄を PR し、アジアにおけるコンベンション・アイランドの地位を確立する。

##### (ボール・ルーム 会議・集会・展示)

- ・ 宴会場(ボール・ルーム等)では、国際会議、研修や集会などビジネス客の誘致を図る基盤とするとともに、展示会や宴会など、様々な催しにフレキシブルに対応できるように可動式の施設を設ける。

##### (イベント・アリーナ)

- ・ 大規模集会やショー、コンサート、プロスポーツの興



ベネチアン(ラスベガス)

<http://www.venetian.com/>



MGM グランド ガーデンアリーナ

<http://www.atlantis.com/>

行や国際大会など、大規模イベントの可能なアリーナを設ける。様々な催しにフレキシブルに対応できるよう多目的な形態とする。

#### F リゾート・ウェディング機能

⇒海洋ロケーションを活かした、ロマンティックでメモリアルなウェディングの演出

- ・ リゾートウェディングにマッチした海辺のチャペルを設置する。
- ・ 沖縄のリゾート・ウェディングは、世界屈指の美しい海と澄み渡る青い空、純白の砂浜など恵まれたロケーションが注目を浴び年々増加している。
- ・ 今後は、複合型エンターテイメントとの連携でアフター・ウェディングも充実することにより、新郎新婦や家族、参列者にも有意義で思い出深い時間を提供していく。



セント・マリア・アリーナ・チャペル(グアム)  
<http://felicita.weddingpark.net/>

#### G シアター&エンターテイメント機能

⇒超一流の劇団やミュージシャンの誘致をはじめ、沖縄芸能のエンターテイメント性の発揮

- ・ 演劇やパフォーマンス、音楽など世界的に超一流のエンターテイメント集団の誘致を図るとともに、沖縄の伝統芸能、音楽等などの独自性をエンターテイメント性の高いショーとして創作・演出し、上演するなど世界に向けて沖縄を発信する。



シルク・ドゥ・ソレイユ  
<http://www.cirquedusoleil.com/>

#### H ヘルシー&ヒーリング機能

⇒「長寿と癒しの島」=気候、景観、人情による極上のヘルシー&ヒーリング・リゾート

- ・ 沖縄は豊かな自然環境、ゆったりとした生活環境、県民のホスピタリティーなど「癒しの島」として知られている。また、長寿地域として学術的にも注目が集まっている。
- ・ 近年では健康保養型旅行商品の開発や、タラソテラピー、イルカセラピー、エステ&スパなどのリゾートメニューがトレンドとなっている。このような優位性を



スパマンダレイ(ラスベガス)  
<http://www.mandalaybay.com/>



生かし、エステ・スパ、タラソセラピーなど多様なヒーリングサービスを提供していく。

- ・ 国際的に関心の高い、「健康」や「長寿」に関しても、沖縄の素材に注目が集まっていることから、エビデンス（科学的根拠）を付加し、質の高いサービスを提供していく。
- ・ また、県内では、長寿研究など高度先進医療等の集積や統合医療等の研究推進なども検討されていることから、これらと連携した健康づくりの展開が求められる。



ドルフィン・セラピー  
<http://www.owf.jp/>

## I アミューズメント機能

⇒通年・全天候で沖縄の海を体感できる海洋レジャー&ミュージアム

- ビーチ&オーシャンドーム
- マリン・ミュージアム
- 自然体験機能
- マリーナ

- ・ 沖縄の魅力は、やはり「海」である。自然の海域を活かして多様なマリン・レクリエーションが行われるが、台風等により沖縄の海を体験できずに帰ることも多々あり、通年・全天候で海を楽しめる仕掛けが必要である。

### (ビーチ&オーシャンドーム)

- ・ 自然のビーチやラグーンを活かすと共に、人工ビーチ、人工ラグーン、屋内海水浴場などを設けることにより、季節や天候に左右されずに沖縄の海の魅力を提供する。海水浴をはじめ、ウォータースライダー等の水上アスレチック、マリン・スポーツ等屋内で楽しめる空間を形成する。

### (マリン・ミュージアム)

- ・ ニライカナイ思想や宝貝の採取、大航海時代など沖縄からの視点によるアジア圏の海洋文化をテーマとしたバーチャル体験ミュージアム等。

### (自然体験機能)

- ・ 自然環境の保全や再生に関する最先端技術の粋を集め、ビオトープ空間を作り出すなど、学術的な研究等に基づく環境保全・再生の学習の場を提供していく。
- ・ 例えばサンゴ礁の再生技術によるサンゴ観察園、亜熱



沖縄の海  
<http://www.ocvb.or.jp/>



ラスベガス フラミンゴ  
<http://www.flamingolasvegas.com/>



バハマ アトランティス  
<http://www.atlantis.com/>

帯の森を再生した生態博物館など、最先端技術によりジオラマではない本物の自然を作りこんでいく。

#### (マリーナ)

- ・ マリーナは、海洋性リゾートのアイテムとしては必要不可欠である。特に、ヨーロッパ等ではヨットの普及率が高い。国際ヨットレースやサバニ帆走レースなどのイベントを誘致することで、海のイメージを PR していく。
- ・ 大航海時代の海と人、沖縄とアジアのつながり等を演出する進貢船クルージングなど、沖縄ならではの演出等も必要である。
- ・ 四方を海に囲まれた沖縄では、プレジャーボート等によるスポーツフィッシングも取り入れていく。特にパヤオ（浮漁礁）フィッシングなどでは大型回遊魚を相手に豪快なフィッシングゲームも楽しめる。



マニラ・オーシャン・パーク

<http://www.oceanparkmanilabay.com/>



マリーナ

<http://www.ocvb.or.jp/>

### ウ 沖縄統合リゾートモデルの支援機能

#### (ア)大型クルーズ客船の誘致

- ・ 現在、沖縄を訪れる観光客のほとんどは、空路を利用している。ただし、海外観光客については、クルーズ船の寄航で訪れる割合が高い。
- ・ 沖縄県では、台湾や中国海岸部に近いという地理的特性を活かし、定期・不定期クルーズ船が寄航している。今後は外洋クルージングネットワークの構築に努め、外国人観光客の誘致促進を図っていく。
- ・ クルーズ船の誘致のためには旅客ターミナル等の整備確保が必要であり、統合リゾートの基盤整備と連携した取組みが必要である。

#### (イ)リゾート人材育成

- ・ 質の高いサービスを提供していくためには、接客に関する知識や技術を持ち合わせる必要がある。沖縄県民のホスピタリティーを効果的に活かしていくためにも、観光関連人材の育成は必要不可欠である。
- ・ また、統合リゾートでは大きな雇用効果が期待されるが、地元人材の登用を進めていく上でもリゾート・アカデミーや専門学校といった人材育成機関を設けていくことが必要である。